

(様式第2号)

# 福祉サービス第三者評価結果報告書

## ①第三者評価機関名

有限会社アウルメディカルサービス

## ②施設・事業所情報

名称：みどり学園	種別：児童発達支援センター	
代表者氏名：杉安 眞矢	定員（利用人数）： 28（28）名	
所在地：岡山市北区中原664-1先		
TEL：086-275-2119	ホームページ： <a href="https://www.asahigawasou.or.jp/midorigakuen/index.html">https://www.asahigawasou.or.jp/midorigakuen/index.html</a>	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日 昭和 49 年 4 月 1 日		
経営法人・設置主体（法人名等）： 社会福祉法人 旭川荘		
職員数	常勤職員： 15 名	非常勤職員 2 名
専門職員	管理者・施設長 1 名	児童指導員 5 名
	児童発達支援管理責任者 1 名	社会福祉士 3 名
	保育士 6 名	
施設・設備の概要	指導訓練室（4室）	事務室（1室）、相談室（1室）、洗濯室（1室）、静養室（1室）、便所（1室）、医務室（1室）、調理室（1室）、倉庫（4室）、集会室（1室）、その他（2室）

## ③理念・基本方針

法人の敬天愛人の、一人一人を大事にするという考えを持つとともに、我々は、障害のある子どもとその家族が家庭、地域社会でその子らしく、その家庭らしく豊かに暮らしていくことができるよう支援を行う。そのために子どもたちの発達や障害特性に応じた支援はもとより、家族が子どもを理解し適切に育てることができるための支援も行っていく必要がある。子どもの発達評価や支援技術のみならず、子どもや家族に寄り添った適切な家族支援や関係機関との連携も行えるように研鑽に努めなければならない。親子通園での療育に始まり、単独通園クラスにおいても、保護者の子どもの障害受容に寄り添うことから始まり、障害特性に合わせ具体的ななかかわりを、場面を共有しながら提案すると同時に子どもの成長発達を促す支援を行い、就学までの短い期間ではあるが子育ての伴走をする。孤立しがちな保護者のそばに常に立ち、保護者同士の出会いやつながりにより保護者を支えることを園の強みとする。発達支援では、それぞれの障害特性や発達段階に応じた個別の支援計画を保護者の意向も踏まえ児童発達支援管理責任者と担任、専門職等で作成し、その計画に沿って療育を展開していく。計画や実際のかかわり方が適切であったかなどの評価を家族とともにやる。年に2回の計画、モニタリングを行い、次年度の療育や、進路先での生活や学習につなげていく。これらの事業で知りえた情報は、決して第三者には提供せず、必要な場合は必ず保護者に許可を得る手順を踏むこととする。児童発達支援センターとして、地域に求められる課題を意識しながら、職員の育成や、地域の課題解決に向け取り組む意識を持つ。また、法人の内の一施設として、法人内での連携を図り地域に貢献することの一翼を担う。

#### ④施設・事業所の特徴的な取組

- ・親子通園の実施
- ・通園バスによる送迎
- ・午前と午後の延長支援（家族支援）
- ・保護者の交流（先輩保護者も含む）
- ・岡山市児童発達支援センター機能強化事業

#### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和 7 年 7 月 1 日（契約日）～ 令和 8 年 3 月 2 日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1 回（ 初受審 ）

#### ⑥総評

##### ◇特に評価が高い点

園長の想いは「子どもや親御さんだけでなく、職員も笑顔になってほしい。ほっこりするような施設にしたい」と語ってくれた。1日を楽しく過ごせるように考えており、職員の成長も大切にしている。その瞬間、瞬間を大切にしており、園庭で遊んでいる子どもの姿があれば、担任に伝えて情報共有し、伝える際には、相手に理解して頂けるように丁寧な言葉遣いで話すように気を付けている。また、家族とのコミュニケーションも大切にしており、親が抱える問題やその経過へのアプローチも全員で解決できるように取り組んでおり、信頼関係を構築している。さらに、地域との連携も重要であると考えており、課題があれば、法人全体で意見を出し合い、対応している点も評価が高い。

##### ◇改善が求められる点

今でも十分にできていますが、職員の環境がより良くなるように、話し合いの場を設けて、環境整備を試みて下さい。また、ボランティアの受け入れの体制は整っているので、書類を明文化して、見えるようにして下さい。

#### ⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価を受けることで、改めて自施設の現状を振り返る良い機会となった。これまで第三者委員会での評価や意見交換の機会、保護者の方からのコメントを頂く機会があったが、改めて客観的に評価を受けることで、自施設の強みや改善点が見いだせたことはよかった。変わっていく時代のニーズに合わせ、日頃取り組んでいることを積極的に発信していく必要にも気づくことができた。また、ボランティアの受け入れが、地域にひらかれた施設を目指す点、地域との連携を考える点、さらに子どもたちにとってのインクルージョンを進めていく点で、重要な要素であることに改めて気づくことができた。この度の評価の項目と着眼点を参考にし、施設運営において不足する部分を改善していきたい。職員が心地よく、元気に働ける環境を整えることとして、令和9年度に建て替えを行うことを計画している。また、業務の改善も現在も検討しており、効率化を含めた働き方の見直しを進めていきたい。

#### ⑧第三者評価結果（別紙）

## 第三者評価結果

## 評価対象Ⅰ 福祉サービスの基本方針と組織

## Ⅰ-1 理念・基本方針

		第三者評価結果
Ⅰ-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		
1	Ⅰ-1-(1)-① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	○a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>法人理念の敬天愛人はもとより、施設における基本的な方針を年度初めの職員会議で輪読して、確認をしている。「子ども、家族を大事にする考えを職員間で共有している」と園長の思いが職員間に伝わっている。事務所の見えるところに、施設の取り組みたい基本的な理念や気をつけることを掲示している。また、運営資料にも明記されている。</p>		

## Ⅰ-2 経営状況の把握

		第三者評価結果
Ⅰ-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		
2	Ⅰ-2-(1)-① 事業経営を取り巻く環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	○a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>行政からの集団指導、子ども家庭庁、岡山県知的障害者福祉協会、ワムネットからリサーチし、法人や施設で情報を取り入れている。施設長会議にて、いち早く情報が届き、議論する機会が持てている。</p>		
3	Ⅰ-2-(1)-② 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	○a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>半期ごとに収支の状況を分析している。法人とも情報を共有し、施設の課題を導き出している。必要に応じて、法人理事に相談している。児童発達支援部会でも情報共有をしており、経営課題に向けての連携も図れている。</p>		

### I-3 事業計画の策定

		第三者評価結果
I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		
4	I-3-(1)-① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	○a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>長期計画は、法人内で情報共有をしており、施設内の建て替えを検討している。中期計画は、南地区内や児童発達支援部会と情報を共有して、策定している。課題の解決に向け、連携が必要な場合は、法人の指示の下で計画が示され、施設内でも共有ができています。</p>		
5	I-3-(1)-② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	○a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>単年度の事業計画は毎年作成しており、法人内で情報共有をしている。基本方針を基に、特に職員育成や地域への貢献に力を入れて取り組んでいる。</p>		

I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。		
6	I-3-(2)-① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	○a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>事業計画は、毎年3月に年度ごとの振り返りを行い、次年度の計画に活かしている。また、年度初めに職員会議にて情報を共有し、施設としての取り組みを職員間に伝え、内容を明らかにしている。</p>		
7	I-3-(2)-② 事業計画は、利用者等に周知され、理解を促している。	a・○b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>入園時には、みどり学園の入園のしおりを使って説明している。その際に、保護者にわかりやすい言葉での説明を心掛けている。コロナ以前は、みどり学園父母の会を開催して、説明する場があった。</p>		

## I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

		第三者評価結果
I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		
8	I-4-(1)-① 福祉サービスの質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a · (b) · c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>施設内での研修は、定期的に外部講師を招いている。法人内での研修や施設外での研修も積極的に提案しており、質を高める取り組みができています。また、地域の施設と共に学ぶ機会も持っています。第三者評価を今回初めて受審した。</p>		
9	I-4-(1)-② 評価結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a · (b) · c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>年度末に、事業所内評価、保護者評価を行い、評価結果から施設として必要な研修の参加を次年度以降に検討している。受講職員の選定で、偏りのないように配慮している。また、施設運営に必要な研修については、施設での補助も行っている。</p>		

## 評価対象Ⅱ 組織の運営管理

### Ⅱ-1 管理者の責任とリーダーシップ

		第三者評価結果
Ⅱ-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。		
10	Ⅱ-1-(1)-① 管理者は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	(a) · b · c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>朝礼や終礼でのコメントや施設長会議へ参加して、法人の方向性や必要な事項の報告をしている。事業計画や事業報告で開示している。入園のつどいにて、園長をはじめ全職員の紹介をしている。また、運営資料にも明記されている。</p>		
11	Ⅱ-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	(a) · b · c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>法人主催の研修会に参加して、管理者としての必要な知識を習得している。ハラスメント研修、リスクマネジメント研修にも参加している。また、他施設や他業務の管理者との交流もあり、必要な知識の吸収や見聞が広がっている。</p>		

Ⅱ-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。		
12	Ⅱ-1-(2)-① 福祉サービスの質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	○a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>終礼では、一日の振り返りや研修参加報告をしている。施設に必要な支援の質については、常に振り返っている。また、質を向上できるように職員とともに取り組んでいる。外部講師からの意見や職員同士の意見交換にて、質の向上を目指している。個人ヒアリングも行っており、個人目標の確認もできている。</p>		
13	Ⅱ-1-(2)-② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	○a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>経営の改善に向けて、人事や労務に関しては、法人からのアドバイスを求めながら、必要な情報は職員にフィードバックして、情報共有を図っている。業務改善については、ICT化については、現在開始しており、職員間での周知や課題解決について検討し、改善に向けて取り組んでいる。</p>		

## Ⅱ-2 福祉人材の確保・育成

		第三者評価結果
Ⅱ-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		
14	Ⅱ-2-(1)-① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	○a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>正規の職員は法人内で募集している。施設の事業計画に基づき、人材の確保や育成をしている。非正規職員については、施設内で募集している。施設内での解決が図られる人材確保や育成については、他施設とも共有することで体制を整えている。</p>		
15	Ⅱ-2-(1)-② 総合的な人事管理が行われている。	○a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>支援として必要な技術はもちろんのこと、コミュニケーション技術を要する対人援助を大切に、職員を配置している。法人内での規定に基づいて、処遇に関しては対応している。人事意向調査も実施しており、本人の専門性や職務に関する意識も評価している。評価項目にない部分については、ねぎらいや感謝の言葉で伝えるようにしている。</p>		
Ⅱ-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
16	Ⅱ-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	○a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>職員の家庭環境や心身の健康状態については、常に気をつけながら、勤務について頂いている。社会状況や法制度について学んでいる。子育て中の職員が多く在籍しており、柔軟に対応し、できる限りの福利厚生が受けられるようにしている。何かあれば見直して、働きやすい環境に繋げている。</p>		

Ⅱ-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		
17	Ⅱ-2-(3)-① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	(a)・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>年度の初めに個人目標を明示しており、進捗状況の確認や適宜面接を実施している。年間事業計画にも、人材育成の強化に取り組んでいると明記されている。研修が必要な職員に対しては、情報提供をしている。施設としての育成に関しては、職員相互の育成も含め、組織的に取り組んでいる。</p>		
18	Ⅱ-2-(3)-② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	(a)・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>事業計画や年間研修計画を基に実行している。職員の支援の様子や保護者のニーズを意識するようにしている。施設としての研修発表会(中国四国地区幼児通園施設職員研究協議会)があり、全職員で取り組んだ結果、一人ひとりの意識が高まり、研鑽にも繋がった。</p>		
19	Ⅱ-2-(3)-③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	(a)・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>法人内での新人研修、岡山県知的障害者福祉協会、自立支援協議会、中国四国地区幼児通園施設職員研究協議会の研修会に、必ず参加している。施設内では、児童発達支援管理責任者がOJTを行っている。情報提供は、口頭や掲示物でアナウンスしている。個人での研修会に参加した職員には、報告会を実施して頂くこともある。</p>		
Ⅱ-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		
20	Ⅱ-2-(4)-① 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	(a)・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>実習の手引きを基に対応している。福祉、医療、教育と様々な分野の実習生を受け入れている。個別にオリエンテーションや振り返りの時間もある。福祉に関する理解、障害理解、特性に関する理解を促しており、目標に合わせた対応をしている。</p>		

### Ⅱ-3 運営の透明性の確保

		第三者評価結果
Ⅱ-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		
21	Ⅱ-3-(1)-① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a・(b)・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>ワムネットにて情報開示をしており、施設では、ホームページにて支援プログラムを開示している。入園のしおり、運営資料やみどり学園職員心得にも明記されている。今回第三者評価を初めて受審した。</p>		

22	Ⅱ-3-(1)-② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a・(b)・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>法人内での内部監査、年1回の管轄行政の監査を定期的を受けている。改善が必要な場合には、速やかに改善策を立てている。指導監査もあり、契約書の内容についての指摘があった。</p>		

## Ⅱ-4 地域との交流と連携・地域貢献

		第三者評価結果
Ⅱ-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。		
23	Ⅱ-4-(1)-① 利用者と地域との交流を広げるための取組を行っている。	(a)・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>利用児の状態を保護者と共有している。地域の社会資源や必要なサービスについて情報提供をしている。その子らしい家族との生活ができるよう取り組んでいる。高島地区のみんなの広場(子ども食堂)に園長が参加した。法人主催のこども祭り、花火大会、南地区の秋のやまびこ祭りに参加した。参観日には、近隣の公園で土手滑りをした。</p>		
24	Ⅱ-4-(1)-② ボランティア等の受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a・(b)・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>法人として、ボランティアの受け入れ体制は示されている。施設での受け入れに関しては、マニュアルの整備には至っておらず、今後記載する予定である。法人内で、夏祭りをした際には、各出店の店主をして頂き、参観日の土手滑りの際には、学生に手伝って頂いた。</p>		
Ⅱ-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。		
25	Ⅱ-4-(2)-① 福祉施設・事業所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	(a)・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>法人内の施設とは、常に連携を図っている。地域の関係機関(子ども支援部会、教育部会、相談支援部会)については、自立支援協議会に参加し、情報の収集や発信を行っている。</p>		
Ⅱ-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
26	Ⅱ-4-(3)-① 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	(a)・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>岡山市自立支援協議会(子ども支援部会、教育部会、相談支援部会)に参加している。法人内での、運営会議(人事労務、サービス向上、環境福祉、各種委員会)に参加し、地域や福祉施設の課題について把握するとともに、機会があれば発信も行っている。</p>		

27	Ⅱ-4-(3)-② 地域の福祉ニーズ等に基づく公益的な事業・活動が行われている。	(a)・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>法人での地域貢献活動として、南地区施設と協同し、近隣の公園周辺環境整備をしている。高島地区の「みんなの広場(子ども食堂)」にボランティアで参加し、情報発信を含めた、地域に還元する取り組みができています。本部地区が、福祉避難所として位置づけられている。</p>		

## 評価対象Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

### Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

		第三者評価結果
Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。		
28	Ⅲ-1-(1)-① 利用者を尊重したサービス提供について共通の理解をもつための取組を行っている。	(a)・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>共通の理解を持つために、みどり学園職員心得を全員で確認している。虐待防止のための研修を定期的に行っており、職員の意識を高められるようにしている。研修後には、チェックシートを活用して、フィードバックできるようにしている。</p>		
29	Ⅲ-1-(1)-② 利用者のプライバシー保護に配慮した福祉サービス提供が行われている。	(a)・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>個人情報については、職員間で共通意識が持てるように、みどり学園職員心得にて、確認している。支援の中では、個室のトイレの使用、水遊び時の着替えといった場面での環境整備を行っている。</p>		
Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
30	Ⅲ-1-(2)-① 利用希望者に対して福祉サービス選択に必要な情報を積極的に提供している。	(a)・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>ホームページで情報を提供し、保護者には丁寧に説明をしている。重要事項説明書や入園のしおりも活用して、説明している。利用希望がある場合には、必ず施設見学や外来教室の利用体験をして頂いている。平均で月1～2名の体験や見学がある。</p>		
31	Ⅲ-1-(2)-② 福祉サービスの開始・変更に当たり利用者等にわかりやすく説明している。	(a)・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>事業所として提供できるサービスについて説明し、思い違いが起きないようにわかりやすい文言を使うように工夫している。利用開始時には、利用目的を明らかにして、同意を得ている。利用変更については、しっかりと話し合い、合意への手順を踏んでいる。</p>		

32	Ⅲ-1-(2)-③ 福祉施設・事業所の変更や家庭への移行等に当たり福祉サービスの継続性に配慮した対応を行っている。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>卒園後も様々な相談を受け付けられる体制を整えている。卒園後福祉サービスを受ける方については、手厚い支援をしている。関係機関との引継ぎは、保護者の承諾を得た上で、実際の様子の見学を勧めている。</p>		
Ⅲ-1-(3) 利用者満足の向上に努めている。		
33	Ⅲ-1-(3)-① 利用者満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>事業所評価を実施している。行事ごとの事後アンケートも実施し、要望を聞く機会を設け、次の行事立案に活かしている。ホームページにて、事業所評価を公開している。保護者同士が話やすいように、集まる場を設けている。ベルマークの集計作業や卒園した保護者との交流の際に、職員が参加して意見の吸い上げを行っている。</p>		
Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。		
34	Ⅲ-1-(4)-① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>苦情解決の対応の仕組みを整えており、事業報告書にも記載している。連絡帳の活用や個別の面談、家庭訪問で意見を聞くようにしている。また、上がった苦情は、毎月のヒヤリハット報告にて取りまとめ、対応策を講じている。苦情については、速やかな対応を心掛け、真摯な姿勢で臨んでいる。また、第三者委員にも報告をしている。</p>		
35	Ⅲ-1-(4)-② 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、利用者等に周知している。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>入園のしおりを配布しており、保護者との情報共有や相談の受付について説明をしている。日常の言葉掛けを意識しており、話しやすい雰囲気作りに努めている。話し合いをする場合には、相談室の利用も可能としている。</p>		
36	Ⅲ-1-(4)-③ 利用者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>連絡帳や口頭での苦情申し出は、形式にとらわれず、受けた相談や意見については、その日のうちに職員間で共有し、不信感や疑念を抱かれないように対応している。また、法人での対応や共有が必要な場合には、速やかに相談し、指示を仰ぐようにしている。昨年度は苦情はなく、要望が1件挙がった。</p>		

Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。		
37	Ⅲ-1-(5)-① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	○ a ・ b ・ c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>日本知的障害者福祉協会が定めた、リスクマネジメント研修を終えた職員も含めた安全計画の策定や見直しができている。施設内で起きた事象は、サービス向上委員会の委員を中心に、事故・ヒヤリハット、苦情対策をして、職員間で共有している。法人内で起きた事例については、施設長会で明らかにし、職員室の掲示板に内容を貼っている。</p>		
38	Ⅲ-1-(5)-② 感染症の予防や発生時における利用者の安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	○ a ・ b ・ c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>感染症対策の委員を選任し、研修会や情報提供をしている。法人内での情報提供、協力の基に対応ができている。コロナの際には、感染者が出た場合には、メーリングリストにて報告をし、情報共有をしている。</p>		
39	Ⅲ-1-(5)-③ 災害時における利用者の安全確保のための取組を組織的に行っている。	○ a ・ b ・ c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>BCPや避難確保計画の準備をしている。大規模災害時の訓練を法人内で定期的に行っており、必ず参加をして、安全確保に努めている。備蓄はアルファ米、乾パン、飲料水、衛生用品、食器類、布団、非常発電機を2階の倉庫にて保管している。</p>		

### Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保

		第三者評価結果
Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。		
40	Ⅲ-2-(1)-① 提供する福祉サービスについて標準的な実施方法が文書化され福祉サービスが提供されている。	○ a ・ b ・ c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>入園のしおりやホームページで療育のプログラムについて説明している。施設内でも研修や職員育成にて、目指すべきこどもの発達について、共通の理解が図れるように実施している。</p>		
41	Ⅲ-2-(1)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	○ a ・ b ・ c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>個別支援計画の見直しや日々の療育の振り返りを行っている。基本、最長6ヶ月として見直しをしている。日々モニタリングを実施して、次の目標を設定している。</p>		

Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。		
42	Ⅲ-2-(2)-① アセスメントに基づく個別支援計画を適切に策定している。	(a)・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>個別支援計画作成に向けて、保護者へのアンケートを実施して、アセスメントをしている。必置の児童発達支援管理責任者を中心に、専門職(作業療法士、心理師)の意見も参考にしながら策定している。</p>		
43	Ⅲ-2-(2)-② 定期的に個別支援計画の評価・見直しを行っている。	(a)・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>計画作成は必要な手順を踏み、モニタリングを基にアセスメントを行っている。保護者の意向が生じた場合にも、速やかに対応し、プランに盛り込んでいる。</p>		
Ⅲ-2-(3) サービス実施の記録が適切に行われている。		
44	Ⅲ-2-(3)-① 利用者に関する福祉サービス実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	(a)・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>朝礼や終礼で利用児の報告をして、全職員で情報を共有している。日々のサービスに反映させていて、家族状況も共有している。園全体で共有したものは、児童発達支援管理責任者が点検する仕組みとなっており、必要であれば個別支援計画に落とし込んでいる。</p>		
45	Ⅲ-2-(3)-② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	(a)・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>パソコンでの記録は、パスワードを設定している。また、パソコンの持ち帰りは禁止としている。園内外で取り扱う写真については、保護者の許可をその都度取り、チェックは必ず二重で行っている。</p>		

## 評価対象Ⅳ 具体的なサービス内容

### Ⅳ-1 利用者の尊重と権利擁護

		第三者評価結果
Ⅳ-1-(1) 自己決定の尊重		
A1	Ⅳ-1-(1)-① 利用者の自己決定を尊重した個別支援と取組を行っている。	(a)・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>利用児の状態をアセスメントし、児の強みや好みに着目した個別支援計画を作成している。</p> <p>また、児の特性に合わせた合理的配慮(視覚支援、感覚過敏への対応)を日常的に実施している。※児はこどもを表している。</p>		

IV-1-(2) 権利侵害の防止等		
A2	IV-1-(2)-① 利用者の権利侵害の防止等に関する取組が徹底されている。	(a)・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>虐待防止・身体拘束適正化に関する委員会を設置している。委員会開催及び、全職員への研修やチェックシートによる自己検証を実施している。行政への速やかな報告体制も整えられており、法人においても、啓発研修や再発防止に取り組んでいる。</p>		

## IV-2 生活支援

		第三者評価結果
IV-2-(1) 支援の基本		
A3	IV-2-(1)-① 利用者の自律・自立生活のための支援を行っている。	(a)・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>児の家庭での過ごし方（生活リズム、日常生活動作）を把握した上で、生活動作の習得に向けて取り組んでいる。※児はこどもを表している。</p>		
A4	IV-2-(1)-② 利用者の心身の状況に応じたコミュニケーション手段の確保と必要な支援を行っている。	(a)・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>意思伝達、相互コミュニケーションについて、発達支援における重要項目として取り組んでいる。発語が難しい児については、絵カード交換システムの手法を使い、コミュニケーションが取れるように工夫している。※児はこどもを表している。</p>		
A5	IV-2-(1)-③ 利用者の意思を尊重する支援としての相談等を適切に行っている。	(a)・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>発達途上にある児には、意思形成から取り組む必要があるため、興味関心を探りながら、自らが好きな物を選ぶことが出来るように支援している。※児はこどもを表している。</p>		
A6	IV-2-(1)-④ 個別支援計画にもとづく日中活動と利用支援等を行っている。	(a)・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>個別支援計画に基づいて、活動プログラムを組み立てている。また、家族で休日に参加できるイベントや活動があれば、情報提供を行っている。</p>		

A7	IV-2-(1)-⑤ 利用者の障害の状況に応じた適切な支援を行っている。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>利用児のとする行動の背景にある、障害特性や環境を総合的に考慮した上で、支援計画策定会議やケース検討会議にて、支援方法を検討している。※児はこどもを表している。</p>		
IV-2-(2) 日常的な生活支援		
A8	IV-2-(2)-① 個別支援計画にもとづく日常的な生活支援を行っている。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>児の家庭での過ごし方(生活リズム、日常生活動作)を把握した上で、生活動作の習得に向けて取り組んでいる。また、食事については児のアレルギー状況や動作・嗜好に合わせて提供している。※児はこどもを表している。</p>		
IV-2-(3) 生活環境		
A9	IV-1-(3)-① 利用者の快適性と安心・安全に配慮した生活環境が確保されている。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>児の年齢やリズムに合わせて、必要な休息がとれるよう環境を整えている。一人で遊ぶことが好きな児が、十分満喫できるようにスペースを確保している。児の過ごす室内は、清潔や適温維持に努めている。体調不良時には、静養室で休むことも可能である。※児はこどもを表している。</p>		
IV-2-(4) 機能訓練・生活訓練		
A10	IV-2-(4)-① 利用者の心身の状況に応じた機能訓練・生活訓練を行っている。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>専門職員(心理、作業療法士)の配置により、個別支援計画を多職種の視点で作成している。所定期間経過後には、再び多職種の視点で見直している。</p>		
IV-2-(5) 健康管理・医療的な支援		
A11	IV-2-(5)-① 利用者の健康状態の把握と体調変化時の迅速な対応等を適切に行っている。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>児の健康状態や医療情報を保護者から細かく聞き取って支援している。法人内の小児科医師が嘱託医であり、年2回の健康診断や保護者からの健康相談に応じている他、インフルエンザのワクチン接種も実施している。※児はこどもを表している。</p>		

A12	IV-1-(5)-② 医療的な支援が適切な手順と安全管理体制のもとに提供されている。	a・b・c
<コメント>		
非該当		
IV-2-(6) 社会参加、学習支援		
A13	IV-2-(6)-① 利用者の希望と意向を尊重した社会参加や学習のための支援を行っている。	a・b・c
<コメント>		
非該当		
IV-2-(7) 地域生活への移行と地域生活の支援		
A14	IV-2-(7)-① 利用者の希望と意向を尊重した地域生活への移行や地域生活のための支援を行っている。	a・b・c
<コメント>		
非該当		
IV-2-(8) 家族等との連携・交流と家族支援		
A15	IV-2-(8)-① 利用者の家族等との連携・交流と家族支援を行っている。	○a・b・c
<コメント>		
<p>保護者とは毎日の送迎時や連絡帳、電話で細やかに情報共有をしている。保護者との面談は定期的(年3回)に行っており、支援の様子も参観して頂いている。普段から相談しやすい雰囲気作りを努めており、その都度、要望に応じて面談の場を設けている。利用中の児の体調変化については、事前に保護者と取り決めた方法で連絡をしている。※児はこどもを表している。</p>		

### IV-3 発達支援

		第三者評価結果
IV-3-(1) 発達支援		
A16	IV-3-(1)-① 子どもの障害の状況や発達過程等に応じた発達支援を行っている。	○a・b・c
<コメント>		
<p>児の支援については、5領域を満たす個別支援計画策定の基、個別支援と集団支援を組み合わせている。活動プログラムは、月毎にチームで立案し、その都度見直している。幼稚園併用児、複数の機関が関係している児については、連絡を取り合い、連携・調整を図っている。※児はこどもを表している。</p>		

#### IV-4 就労支援

		第三者評価結果
IV-4-(1) 就労支援		
IV-4-(1)-①	利用者の働く力や可能性を尊重した就労支援を行っている。	a・b・c
<コメント>  非該当		
IV-4-(1)-②	利用者に応じて適切な仕事内容等となるように取組と配慮を行っている。	a・b・c
<コメント>  非該当		
IV-4-(1)-③	職場開拓と就職活動の支援、定着支援等の取組や工夫を行っている。	a・b・c
<コメント>  非該当		